

1928



2008

スキラ社 会社概要

第一章 出版界の伝説の歴史

1931年10月25日:ピカソが50歳になった同日、長年に渡る作業の末、ピカソがその本の為に特別に描いた銅版画30点を収めたオヴィッドのメタモルフォーシスが出版された。少年の頃からピカソに会うのが夢だった若い編集者にとって、この本は、三年間に及ぶ情熱に満ちた、たゆまぬ努力の結晶であった。

その編集者の名はアルベール・スキラといい、メタモルフォーシスは彼が手掛けた最初の本であった。一年後の1932年、第二の卓越した本が出版された。アンリ・マティスのオリジナル銅版画29点を収録したマラルメのpoesiesである。

これら2冊の本は、美術書の歴史において特別な存在である。20世紀芸術の二大巨匠であるピカソとマティスは、自らの作品を提供し続けることで、生まれて間もない出版社の歴史に足跡を残した。1948年、マティスはスキラ社の二十周年記念のカタログの表紙をデザインし、それはオフィシャルではないもののスキラ社のロゴとして認識されるようになった。

1933年、スキラ社はブルトンに新しい雑誌に寄稿するよう提案する。こうしてミノールが発行され、シュールレアリストの雑誌が誕生した。

ブルトンとエリュアールは、ピカソ、マティス、ブラック、ドゥラン、ローランス、ブランクーシ等の作品だけでなく、ラカンの初期の著作、黒人芸術に関するミシェル・レリスの考察、そしてマン・レイとブラッサイの写真も出版した。

1934年、スキラ社は、全シリーズ40タイトル以上から成る、大規模で野心的なプログラム、Les Trésors de la Peinture française を創刊した。

スキラ社は、「芸術を美術館から図書館へ」という当時のスローガンが表している通り、芸術をより身近なものにした。そして全ての出版物には細心の注意が払われ、クオリティの高さが追求された。

写真、複製、インク、特製の紙、印刷、製本に至るまで細やかな配慮が施され、また初めて出版された美術書はフルカラーであった。複製のレイアウトと、特に当時の技術からして目を見張るものがあつた色彩のクオリティの高さにより、スキラ社は国際的に高い評価を得た。しかし、Peinture-Couleur-Histoireにより同社の方向性が定まったのは第二次世界大戦後のことであつた。1949年、有名な細長い大文字のスキラの名が初めて同シリーズの中に現れる。全20巻に及ぶこのシリーズは、印象派からシュールレアリストに至るまで近代絵画を網羅した三部作から出版が始まった。

この三部作が出版された1950年、シュールレアリズムの主要な役達は活躍してはいたものの、この近代芸術に欠かせない分野については殆ど書かれておらず、また出版についても非常に稀であつた。

複製の高いクオリティも手伝い、三部作は大きな成功を収めた。

そしてそれに続いて出版されたL.ヴェントゥーリのイタリア絵画についての三巻も世界的に高い評価を得た。

近代的な製作活動は特筆すべきものであつた。スキラ社の写真家達は、入念に組まれた足場に座り、スクロヴェーニ礼拝堂にあるジョットと、アレツツォのサン・フランチェスコ教会にあるピエロ・デラ・フランチェスカの프레스コ画を細部にこだわって撮影した。そのクオリティの高さは前例をはるかに超える水準であつた。こ

れを受けて同社は絵画史上重要な位置を占める国々にその研究範囲を広げることにし、その結果スペイン、オランダ、フランドル地方、そしてドイツの絵画が記録され、写真に収められた。

1969年に刊行された2冊は、アメリカ絵画とその主要な画家、デ・クーニングやジャスパー・ジョンズ、アンディ・ウォーホル、リクテンスタインの国際的な成功を決定付けた。

1949年から1969年にかけて、スキラ社は黄金期を迎える。7つの新しいシリーズを出版し、Peinture-Couleur-Histoire に続き、the Les grands Siècles de la Peinture のシリーズを出版した。その斬新な四角いフォーマットは強い印象を与え、Le goût de notre Temps のシリーズにおいても引き続き使用された。そして画家、芸術運動、そして芸術に関わる地域を網羅した50巻から成るシリーズは、スキラ社の美術書の中でもとりわけ高く評価され、有名になった。

Les Trésors de l'Asie の出版に伴い、スキラ社はそれまで数少ない専門家達に限定されていた領域であった研究分野へと進出する。当時手に入る写真が限られていた為、同社は上質の全く新しい写真を作成することに尽力を注ぎ、その使命を負った写真家達はアジア大陸の隅々まで足を運んだ。

The Les trésors du Monde を通して人々は、インカ文明やマヤ文明の至宝に加え、バチカン、ペルシャ、エジプトに隠された数々の最高傑作を目にすることが出来た。1964年には、その歴史的・観念的な背景において芸術を探求したArt-Idées-Histoire が刊行された。

芸術、詩そして文学が一体となって生まれたのがLes Sentiers de la Création であった。文章に添えられた挿絵の高いオリジナル性により、このシリーズはスキラ社の最も実験的な作品となり、様々な意味でアルベール・スキラへの賛辞そのものとなった。

才気あふれる有能な編集者は1973年に亡くなったが、それまでにアラゴン、ピュートル、ロラン・バルト、プレヴェール、アストゥリアス、そしてパズによって書かれた20タイトル以上が出版された。芸術界と出版界における偉大な先導者がこの世を去っても、彼の創造物と独自の模範スタイルは、世界中で確固たる現実となったのである。

スキラ社のカタログには、L. ヴェントゥーリからアルゴンとジャステル、さらにデュビーからローゼンバーグとシルベスターに至るまで、芸術界と文学界の歴史において最も有名な作家達が名を連ねている。

執拗なまでにこだわった挿絵のクオリティは、美術書の出版常識に革命をもたらした。あらゆる主要言語に翻訳され、独自の革新的な流通システムを通じてスキラ社は世界にその名を知られるようになり、出版界の歴史においても例をみない、真の国際的出版社となったのである。

スキラ社は今日世界中で、「格式高い出版社」という枠を超越した存在として認識されている。同社は上質な美術書のまさに象徴そのものとなり、情熱に満ちた、かつ洗練されたスタイルで出版社の存在意義を体現しているのである。

第二章 今日のスキラ社

スキラ社は年に300部を超えるの新しいタイトルと約60部の復刻版を出版している。

視覚芸術が編集活動の重要な分野であることに変わりはなく、Grands Livres のシリーズと近代・現代芸術家のカタログ・レゾネは傑出しており、学者やコレクター、市場関係者にとってなくてはならない参考文献となっている。

さらに、エッセイシリーズ (Bibliothèque d'Art、スキラ・ペーパーバック、アート・ストーリー)、美術ガイド、主な公的・個人コレクションのカタログを出版している。

同社の世界的な展開に合わせて建築に関する出版も顕著に増加しており、世界を代表する建築家の2シリーズと、歴史と批評に関する1シリーズを発行している。装飾美術とデザイン、ファッションに関する出版も引き続き増えている。

スキラ社はまた、国際展開していく上で将来重要な位置を占めていく分野として、写真に関する作品の出版も始めた。

スキラ社は出版界史上初めて、一つの国に限定したり、もしくは本の権利を外国人共同編集者に渡すことなく、スキラ社の名の下で主要言語で発行するという特筆すべき重大な決断をし、これにより同社の名を世界中に広めた。

スキラ社は今日、取り扱う様々な国や地域、そして言語に対応する為、多言語で出版を行っている。

毎年30以上の新しいタイトルが出版される英語版は、Rizzoli International Publications により、Random House の大規模な流通網を通じて北米全土で販売されている。その他の国々は、Thames & Hudson により販売されている。

スキラ社にとって特別な意味を持つフランス語版は、Flammarion と提携して販売されている。

ドイツ語版の強みは、ウィーン美術史博物館Kunsthistorisches Museum を始めとする、最高の美術関連施設との密接な関係にある。同社のシリーズは現在Thames & Hudson によりドイツとオーストリアで販売されている。

イタリアの主要な展示会のカタログを含むイタリア語版は、Rizzoli の流通網を通じて販売されている。

スペイン語とポルトガル語でのスキラ社の出版は多くはないものの、重要であることに変わりない。現在、この言語での出版は、マドリッド、バルセロナ、ビルバオ、リスボンでの主要な美術イベントに関連するものが中心である。

イタリア、フランス、そして世界における展示会の先導者

美術イベントに関する出版物において、スキラ社はイタリアでは突出した存在であり、フランスと世界では重要な立役者である。イタリアと海外で開催される展示会の為に、毎年100部以上のカタログを出版している。

スキラ社の専門チームは、展示会の主催者に、同社独自の出版物のデザイン、図、製作プロセスを提供している。

スキラ社は、Il Cinquecento Lombardo、ノヴェチェント等のイタリアの優れた展示会の為にカタログを出版してきた。ほんの一部の例としては、マンチュアのゴンザガ、ミラノのパラッツォ・レアーレでのアントン・ヴァン・ダイク、フィレンツェのポッティチェリとフィリッピーノ、ミラノのパラッツォ・レアーレでのカラヴァッジョ、ヴェニスのコレール美術館でのヴェローネーゼ、そしてローマのコンプレツ・デル・ヴィットリアーノでのモネ等の展示会が挙げられる。

スキラ社は世界中の多くの美術館や美術関連施設と共同で活動している。最近の例としては、the Grand Palais、the Petit Palais、リュクサンブール美術館(スキラ社が公式出版社)、パリのアラブ世界研究所、ウィーンのthe Kunsthistorischesmuseum、ジュネーブの美術・歴史博物館とボドメール財団、モナコ公国のthe Nouveau Musée National of Monaco、モンテカルロのthe Grimaldi Forum、ビルバオのグッゲンハイム、バルセロナのミロ美術館、マドリッドのテッセン・ボルネミッサ美術館、リスボンのthe Museo de arte Antiguaとthe Fundação Calouste Gulbenkian、コペンハーゲンのニュー・カールスベア美術館、ロッテルダムのクンスタル、アテネのキクラデス美術館、カナダのモントリオール美術館、ニューヨークのMOMAとメトロポリタン美術館、ワシントンのナショナル・ギャラリー、スタンフォード大学アイリス&B.ジェラルド・カンター・センター・フォー・ビジュアル・アーツ、そしてコロンビア、ボゴタの黄金博物館が挙げられる。

カタログは細目にわたり、ビジュアル的にも卓越しており、また高い専門性を備えている為、特定のテーマに関する参考文献として最高の資料となっている。

展示会等のイベントのプロデューサーとしてのスキラ社

スキラ社にはイベントを企画しプロデュースする専門の部門がある。同社は自主的に、またイタリアや海外の公・私的機関と共同で活動し、魅力に溢れた多角的な展示会イベントを開催している。

スキラ社の主なシリーズ出版物:

考古学
建築
古代芸術
近代美術
現代美術

オリエンタル美術
原始芸術
コレクション、美術館、美術関連地域
デザインと応用美術
ファッションとコスチューム
写真

近代美術カタログ・レゾネ

スキラ社の優れた出版物は、間違いなく、世界的に知られる参考文献となった包括的なカタログ・レゾネである。このカタログは豊富な挿絵と詳細な専門情報と共に、一人の芸術家の全作品を網羅している為、世界中の学者やコレクターにとって必須のツールとなっている。

カタログ・レゾネに収録されている芸術家は、ルーチョ・フォンタナ、ポール・ゴーギャン、ル・コルビュジエ、ピエロ・マンゾーニ、マリーニ・マリーノ、アルベール・マルケ、ファウスト・メロッチェ、ピエト・モンドリアン、ミモ・ロッテラ、アルパド・スゼンヌ、エドゥワール・ヴエイヤール、カミーユ・ピサロである。